

紫金山公園の樹木ガイド



紫金山みどりの会

紫金山みどりの会

1998年発足

本会の目的

1. 里地里山景観の保全
2. 生物多様性の保全
3. コバノミツバツツジの保全

保全作業として以下のことを行っています

林床のササの刈り取り
樹木の適正な管理
倒木の整理
散策路の保全・修理
園内の清掃

活動日

毎月第2土曜日 9:30～15:00

ホームページ

<https://pierisjp70.wixsite.com/my-site>

常緑樹高木



アラカシ(ブナ科)

高さ20m。葉は長さ7～12cmで、上半部にきょ歯がある。葉の裏はやや白い。本公園で最も多い常緑樹の1つである。



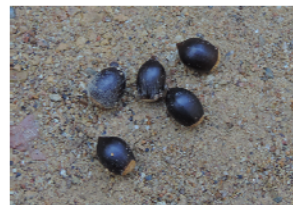
クスノキ(クスノキ科)

高さ20～30m。葉は長さ6～10cm。常緑であるが、毎年葉を落とし、新しい葉と入れ替わる。樟脳がとれ、防虫剤などに使用されていた。

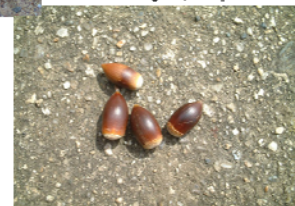


コジイ(ブナ科)

高さ20m。葉は長さ5～10cmで全縁。葉の裏は褐色。吉志部神社の裏に大きな木がある。



コジイ



スダジイ

コジイに似ているのがスダジイで、コジイは実が丸く、スダジイは実が細長い。公園の南側トイレの横にあるのがスダジイ。



モチノキ(モチノキ科)

高さ15m。葉は長さ4～7cmで、全縁。雌雄異株。葉の質はやや厚い。樹皮からとりもちをとる。



クロガネモチ(モチノキ科)

高さ15m。葉は長さ5～8cmで、全縁。雌雄異株。モチノキより葉の質は薄く、やや内側に反る。庭木などによく使われる。



ソヨゴ(モチノキ科)

高さ10m。葉は長さ5～10cmで、全縁。縁が波打つ。雌雄異株。葉が風に揺られて音をたてることからこの名が付いた。



クロバイ(ハイノキ科)

高さ10m。葉は5～7cmで、細かい鋸歯がある。葉の先は尾状になる。花は5月頃に咲く。



サカキ(モッコク科)

高さ10m。葉は長さ8～10cmで、全縁。先が尖る。6～7月に直径1cm程の白い花を咲かせ、10月頃に黒い実をつける。冬芽は鎌状に曲がる。本公園では自然遷移ゾーンに多い。



モッコク(モッコク科)

高さ10m。葉は長さ6cmで、全縁。葉の表面はやや艶がある。6～7月に直径2cmほどの白い花を咲かせる。本公園では大きな木は少ない。



アカマツ(マツ科)

高さ20m。新芽は赤い。本公園では南斜面に多いが、マツ枯れや台風による被害で少なくなってきている。



クロマツ(マツ科)

高さ20m。アカマツに比べて葉は長く、硬い。新芽は白い。吉志部神社の参道に植えられている。

常緑中低木



シャシャンボ (ツツジ科)

高さ7m。葉は3～6cmで、きょ歯があり、葉先は尖る。裏面脈上には小さなトゲがある。6～7月に穂状に白い花をつけ、実は冬に熟し食べられる。



カナメモチ (バラ科)

高さ8mで、葉は5～10cm。葉はやや硬く鋭いきょ歯がある。新芽が赤いのでアカメモチとも言われる。5月頃に白い花を咲かせる。



ヒサカキ (モッコク科)

高さ6m。葉は3～5cmで、きょ歯がある。葉先は少し凹む。花は3～4月にかけて咲き、黒い実になる。雌雄異株。



トウネズミモチ

ネズミモチ

トウネズミモチとネズミモチはよく似ているが、トウネズミモチは葉がやや大きく、脈が透けて見える。



トウネズミモチ (モクセイ科)

高さ8m。葉は対生し、長さ6～12cmで、全縁。果実は丸く、鳥が好むため各地に広がっている。中国原産。生態系に被害を及ぼす恐れのある外来種に指定されている。



ネズミモチ (モチノキ科)

高さ6m。葉は対生し、長さ4～7cmで、全縁。果実は楕円形でネズミの糞に似ている。本公園では少ない。



クチナシ(アカネ科)

高さ2m。葉は対生し、長さ5～12cmで、全縁。6月頃に白い花を咲かせる。実は黄色の着色料として用いられる。



アオキ(ガリア科)

高さ2m。葉は長さ5～20cmで、荒いきよ歯がある。雌雄異株。本公園では植えられたものが多く、林内には少ない。



カクレミノ(ウコギ科)

高さ8m。葉は長さ10～15cm。2, 3裂するが、成長すると共に切れ込まなくなる。本公園では大きな木はなく、少ない。周辺地域から鳥によって運び込まれた可能性がある。



ヤツデ(ウコギ科)

高さ3m。葉は長さ20～30cmで、8,9に深く切れ込む。晩秋に花をつける。



ナワシログミ(グミ科)

高さ3m。葉は長さ5～10cm。葉の裏は星状毛があり、白い。枝はつる状になり、他の木にひっかかって伸びる。秋に花が咲き、春に実が熟す。食べられる。



シュロ(ヤシ科)

高さ6m。葉は直径50～80cm。深く裂ける。幹の上部は繊維状の葉鞘で覆われており、これがシュロ縄やたわしの原料となる。



マサキ(ニシキギ科)

高さ5m。葉は長さ3~8cm。本来は海岸に自生するが、庭園などによく用いられる。本公園のものも近くから逃げ出してきた可能性がある。



シャリンバイ(バラ科)

高さ4m。葉は長さ4~8cm。本種も海岸性の植物で、庭園などに良くも散られる。鳥が種を運ぶので、本公園のものも近くから運ばれてきた可能性がある。



シチヘンゲ(クマツヅラ科)

高さ2m。葉は長さ8~12cmで、対生する。メキシコ、南アメリカ原産で、本公園のものは鳥によって運ばれてきたと思われる。

夏緑高木



コナラ(ブナ科)

高さ20m。葉は長さ5~12cmで、きょ歯がある。本公園ではカシノナガキクイムシの被害を受けて、枯れたものも多い。



クヌギ、クリ、アベマキの葉はよく似ている。クリはきょ歯の先まで葉緑素があり緑に見える。アベマキは葉の裏に毛があり、白い。クリは本公園ではかなり少ない。



クヌギ(ブナ科)

高さ20m。葉は長さ5～15cmで、きょ歯がある。きょ歯の先は針状に尖る。本公園のものは植栽されたものである。



アベマキ(ブナ科)

高さ20m。葉は長さ5～15cmで、きょ歯がある。きょ歯の先は針状に尖る。クヌギによく似ているが区別点は前述の通り。



エノキ(アサ科)

高さ20m。葉は長さ4～9cmで、きょ歯がある。左右不対称。ゴマダラチョウ、テングチョウ、ヒオドシチョウの食樹となっている。また、タマムシもよく集まる。



ムクノキ(アサ科)

高さ20m。葉は長さ4～10cmで、きょ歯がある。葉の表面には硬い毛があり、木工の研磨に使われることがある。秋に実は黒く熟し、果肉は甘い。



ヤマザクラ(バラ科)

高さ20m。葉は長さ5～10cmで、きょ歯がある。花は4月上旬に咲き、葉も同時に展開する。新葉は赤く、成葉の裏はやや白い。本公園では自生のものは少ない。



カスミザクラ(バラ科)

高さ20m。葉は5～10cmで2重きょ歯がある。葉柄に毛があり、葉の裏が淡緑色であることで、ヤマザクラと区別できる。花は白色で、ヤマザクラより1週間から10日ほど遅く咲く。



マルバアオダモ(モクセイ科)

高さ15m。葉は複葉で対生し、長さ20～40cm。5月頃に穂状の白い花を咲かせる。本公園では少ない。



ザイフリボク(バラ科)

高さ10m。葉は長さ4～9cmで、細かい鋸歯がある。若葉の裏面には綿毛が密生するが、後に脱落する。4月頃に白い花を咲かせる。本公園では2本しか確認されていない。



カキノキ(カキノキ科)

高さ10m。葉は長さ7～17cmで、全縁。野生のものは全て、渋柿である。本公園では実のなっている木は尾根沿いの園路と田んぼの畦にある2本である。



センダン(センダン科)

高さ20m。葉は2回羽状複葉で、長さ40～60cm。5月頃に淡紫の花をつける。実は秋に熟し、鳥が好む。



ヤマナラシ(ヤナギ科)

高さ10m。葉は長さ10～15cm。葉柄が縦に平たいので風でよく揺れる。雌雄異株。



アカメヤナギ(ヤナギ科)

マルバヤナギともいう。高さ10m。葉は長さ5～10cm。湿地に生える。本公園では釈迦が池と陶芸の里ゾーンに見られる。



ナンキンハゼ(トウダイグサ科)

高さ15m。葉は長さ4～7cmで、先は尖る。秋に紅葉し、非常にきれいである。しかし、中国原産で生態系に被害を及ぼす恐れのある外来種に指定されている。



ニワウルシ(ニガキ科)

シンジュとも言う。高さ20m。葉は大型の複葉で、長さ60～100cm。中国原産で生態系に被害を及ぼす恐れのある外来種に指定されている。

夏緑中低木



ハゼノキ(ウルシ科)

高さ8m。葉は羽状複葉で、長さ30～40cm。雌雄異株。実から和ろうそくの原料がとれる。また、樹液は漆塗りの原料ともなる。



ヤマハゼ(ウルシ科)

高さ8m。葉は羽状複葉で、長さ30～50cm。雌雄異株。ハゼノキによく似ているが、ヤマハゼの葉には毛があるので区別できる。



ヌルデ(ウルシ科)

高さ7m。葉は羽状複葉であるが、中肋には翼がある。長さ30～50cm。雌雄異株。ヌルデフシムシによって虫食いができることがあり、五倍子と呼ばれ、染料に用いられる。



アカメガシワ(トウダイグサ科)

高さ8m。葉は長さ7～20cmで、長い柄がある。円形もしくは卵形で、浅く3裂することもある。新芽が赤いので、この名が付いた。



クサギ(シソ科)

高さ6m。葉は長さ10～15cmで長い柄がある。夏に白いを咲かせ、秋には瑠璃色の実がなる。臭気があるので、この名前がつけられたが、人によっては良い匂いということもある。



タラノキ(ウコギ科)

高さ6m。葉は大きく1mになることもある。2回羽状複葉。葉および幹にはトゲがある。新芽はタラの芽として重宝される。



エゴノキ(エゴノキ科)

高さ8m。葉は長さ3～7cm。5月頃に白い花をつける。果皮には有毒なエゴサポニンを含む。本公園には植栽されたものがあり、林内のものはそこから逃げ出した可能性がある。



ネジキ(ツツジ科)

高さ8m。葉は長さ4～7cmで、全縁。5月頃に白花をつける。冬にはその年に出た新枝は赤くなり、ヨメノヌリバシとも呼ばれる。



コバノミツバツツジ(ツツジ科)

高さ4m。葉は4～6cmで、全縁。3月下旬から4月上旬にかけて花を咲かせる。西日本の里山の代表的なツツジである。



コバノミツバツツジの葉

葉は互生であるが、枝の先間隔が縮まり、3枚輪生しているように見える。葉柄には剛毛が密生する。



モチツツジ(ツツジ科)

高さ3m。葉は長さ4～7cmで、全体に毛が多い。萼には腺毛が多く、粘る。このことからこの名前がついた。関西、東海地方の里山に多い。



ナツハゼ(ツツジ科)

高さ2m。葉は長さ3～5cmで、全縁。荒い毛がある。秋に黒い実がなり食することができる。本公園では1株しか確認されていない。



ツクバネウツギ(スイカズラ科)

高さ1.5m。葉は対生し、長さ2～3cmで、4ない5対の荒いきよ歯がある。萼が5枚あり、花が落ちた後、羽子板の翅に似ているので、この名が付いた。本公園では少ない。



ウメモドキ(モチノキ科)

高さ3m。葉は長さ3～5cmで、細かいきよ歯がある。雌雄異株。本公園では雌株、雄株それぞれ1株しか確認されていない。



イヌビワ(クワ科)

高さ4m。葉は長さ10～15cmで、全縁。雌雄異株。果実はイチジクに似ていて食べることができる。葉をとると白い汁が出る。



コミノネズミモチ(モチノキ科科)

高さ3m。葉は対生し、長さ2～3cmで全縁。セイヨウイボタの名で販売されており、垣根などによく使われている。本公園でも植えられており、それが逸出して、林内にも繁殖している。



コムラサキ(シソ科)

高さ1.5m。葉は長さ3～7cmで、対生する。秋に紫色の実をつけるが、白いものもある。園芸用としてよく使われているので、本公園のものは鳥で運ばれてきたと思われる。

紫金山公園の樹木ガイド
紫金山みどりの会

2023年3月31日発行

著者 武田義明

〒565-0833 吹田市五月が丘西1番 A409

Email: pierisjp70@gmail.com

